

## ◆授業設計のポイント◆

- ・単元を構造的に捉え、深い学びを実現する手立ての工夫
- ・対話的な学びを通して、思考の広がりや深まりが生まれる手立ての工夫
- ・学習プロセスを見通し、振り返る活動の充実を図り、主体的な学びを実現する指導の工夫

# 保健体育科学習指導案

学 級 1 年 5 組 (男子 20 名 女子 19 名 計 39 名)  
場 所 伊 敷 中 学 校 体 育 館  
指 導 者 教 諭 松 崎 美 鈴

## 1 単 元 球 技 ネット型 「バレーボール」

### 2 単元について

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。中学校では、小学校の学習を受けて、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにすることが求められる。

本単元では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技能の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的なボール操作、仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにする。

本学級は、明るく素直で、体育の授業は意欲的に取り組む生徒が多い。一方で、運動や集団活動に対して苦手意識を抱く生徒もおり、配慮が必要である。

バレーボールは、ネットをはさんで相対する2チームが、サービス、レシーブ、パス、トス、スパイク、ブロックなど、それぞれの個人技能の高まりが集団的技能の質の向上につながり、生徒一人一人が得点に貢献していると実感できる。一方で、相手や味方との身体接触がほとんどなく個人技能の習得状況が明らかになることから、失敗経験が生徒の苦手意識や意欲低下を招くことにつながる場合もある。

指導にあたっては、基本的な技能の習得と味方とのコミュニケーションをとることを重点に、ミニゲームを多く取り入れバレーボールの特性に触れながら、声を出し合い、楽しく、協力してプレーすることで意欲を高めさせたい。単元を進める中で、自分のコートに空いた場所を作らせない動きや攻防時のポジションを理解させ、チームで作戦を立てさせ、自分たちが立てた作戦をゲームの中で検証して課題解決させる工夫をしていきたい。

### 3 単元の目標

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、バレーボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。  
(知識及び技能)
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) バレーボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとするなど、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができる。  
(学びに向かう力、人間性等)



5 本時の実際 (6/10)

(1) 題材 球技 ネット型 「バレーボール」

(2) 目標

ア 相手側のコートの空いた場所にボールを返球し、攻防できる。 (知識及び技能)

イ 自己やチームの課題や考えを共有し、解決に向けて取り組むことができる。 (思考力、判断力、表現力等)

(3) 授業設計の工夫

ア 単元を構造的に捉え、深い学びを実現する手立ての工夫・・・**研究の視点1**

構造図を提示し、知識と技能の関係性を意識させ、具体的な学習内容と学習過程について見通しを持つことにより単元の成り立ちを理解させる。単元の成り立ちとしては、知識・技能の習得を主なねらいとする学習段階と、その活用をねらいとする学習段階があることを理解させる。

イ 対話的な学びを通して、思考の広がりや深まりが生まれる手立ての工夫・・・**研究の視点2**

話合いの場面において、考えを可視化して共有したり、整理したりする手立てとしてホワイトボード上でマグネット等を動かしながら、他者にわかりやすく根拠をもって伝えられるようにする。さらにチームを巡回しながら、生徒の考えの理由を問うような発問(声掛け)を行い根拠の確認をする。また、動きをタブレットで撮影することによって、後で自分たちの動きを映像で確認し合いながら意見交換できる環境を設定し、より対話的な学びを深めさせる。

ウ 学習プロセスを見通し、振り返る活動の充実を図り、主体的な学びを実現する指導の工夫

・・・**研究の視点3**

課題を発見し、追究活動を経て、自分なりの答えを導き出す一連の学習プロセスを見通せる簡潔で分かる導入を行う。学習課題の提示の際は、「内容目標」と「行動目標」を伝える。「内容目標」は本時の授業で理解する知識や技術、イメージする事柄等を伝え、「行動目標」は「汎用的な資質・能力ルブリック」につながるものにして、汎用的な資質・能力の育成を図る。振り返りにはリフレクションカードを活用し、生徒が自分の内面と向き合い、自分自身の考えや学習、成長、実践に気付くように導きたい。

(4) 常に取り組む汎用的な資質・能力

協働する力 レベル1	
「課題を把握し、他者に自分の考えを伝えることができる。」	
例) 「私は〇〇だと思うよ。」 「僕は□□だと思う。」	
<p><b>【生徒の姿】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の課題について、思考し判断したことを、言葉や文章及び動作などで表したり、仲間や教師などに理由を添えて伝えようとする姿</li> <li>話合いの中で、他者に自分の考えを伝えようとする姿。</li> </ul>	<p><b>【手立て】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを伝えようとする際に活用(提示)できるよう、単元前レポートやリフレクションカード、実技の教科書を準備しておく。</li> <li>チームごとに話合いを行う中で、考えを言葉だけでなく、可視化して共有できるようホワイトボードとマグネットやタブレットで撮影した映像を準備し、考察させる。</li> </ul>

(5) 展開

過程	時間	学習形態	学習活動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業設計の工夫
準備 準備運動 健康観察	5分	一斉	<p>1 準備, 安全点検をする。</p> <p>2 準備運動を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランニング ・ラジオ体操</li> <li>・補強運動</li> </ul> <p>3 あいさつ・健康観察をする。</p>	<p>○ 場の安全を確認する。</p> <p>○ 仲間と交流し, 自他の心身の状態に気付かせながら, 準備運動と補強運動ができるようにする。</p> <p>○ 欠席者, 見学者を把握し, 生徒の健康状態を観察する。</p>
課題追求  練習  思考  診断  評価	35分	一斉   チーム	<p>4 本時の目標と学習の流れを確認する。</p> <p>《内容目標》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>三回目攻撃で, 効果的に得点するにはどうすればよいだろうか。 (キャッチ → トス → キャッチ 両手スパイクを通して)</p> </div> <p>《行動目標》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>動きの中で気付いたことを, ホワイトボードや言葉等を用いて自分の考えを伝えることができる。</p> </div> <p>5 前回の自分たちの映像を見て, 気付いたことを話合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>気付き</b></p> <p>「動いてない。」「構えていない。」</p> <p>「人任せにしているキャッチできない。」</p> <p>「人と人の間にきたボールをとるのが難しい。」</p> <p>「次の人がキャッチしやすいボールを返せた。」</p> <p>「人の正面に返したら拾われるから, 返す場所を考えよう」</p> </div> <p>6 三回目攻撃で効果的に得点する方法を考え, 共有し, 練習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>納得</b></p> <p>「キャッチレシーブした後のボールをトスしやすいところに返す。」「空いているところに返そう。」</p> <p>「ラインギリギリをねらうのもいいかも。」</p> <p>「フェイントを使うのもいいかな。」</p> </div>	<p>○ 本時の学習の目標や流れを理解させ, 学習の見通しをもたせる。</p> <p>※ 単元構造図で学習内容や流れ, 取り組むべき課題を明確にして課題を設定しやすくする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">研究の視点1</div> <p>○ これまでの学習を想起させる学習資料(単元前レポート・実技の教科書)や映像などを提示することにより, 活用できる動きや場面を予想しやすくする。</p> <p>※ 気付いたことを言葉だけでなく, 可視化して共有できるようホワイトボードを準備し, より活動を具体化したり動きを確認したりしやすくする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">研究の視点2</div> <p>※ チームを巡回しながら, 考えの理由(空間の使い方等)を問うような発問(声掛け)を行い根拠の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">研究の視点2</div> <p>○ ボールを持った人のボール操作やボールを持たない人の動きなど, 納得につながるような声掛けをする。</p> <p>◎ 自己やチームの考えを分かりやすく他者に伝えることができているか。</p>

		チーム 一斉	7 話し合ったことを基に再度、ゲームをする。 <b>意志</b> 「お互いに声をかけあう。」 「次の人がプレイしやすいボールを渡す。」 「相手コートに空いている場所や人と人の間に返そう。」 「状況に応じてフェイントを使ってみる。」 「チームの連携を高めるためにも、個人の基本的技能をもっと練習する必要がある。」	◎ 相手側のコートの空いた場所にボールを返球し、攻防できるか。 ○ 出された意見を中心に有効な動きを意識させるようにゲーム中に積極的に介入しながら声掛けをする。 ◎ 4対4のゲームで、工夫して得点を奪う方法を考え、攻防することができるか。 ○ ゲームのないチームは、審判・得点板・撮影等を行わせる。
整理運動		一斉	8 整理運動をする。	○ 整理運動で心身をリラックスできるようにする。
評価・反省	10分	個人 チーム 一斉	9 本時を振り返り、評価・反省を行う。	※ リフレクションカードを用いて「内容目標」と「行動目標」について振り返り、次時の学習へとつなげられるようにする。 <b>研究の視点3</b> 自己やチームの振り返りを行うとともに、全体で考えを共有する時間も設ける。
		一斉	10 次時の学習内容を確認する。	○ 次時の学習内容や目標を伝え、更なる学習意欲を喚起する。
健康観察			11 健康観察、あいさつをする。	○ 生徒の体調を確認し、後片付けをする。

(6) 評価

ア 相手側のコートの空いた場所にボールを返球し、攻防できたか。(知識・技能)

イ 自己やチームの課題や考えを共有し、解決に向けて取り組めたか。(思考・判断・表現)